

NHK広島放送局

「1945 ひろしまタイムライン」担当 御中

公共放送にあるまじき民族差別扇動の書き込みに抗議し、謝罪と検証を要求する
～「シュンひろしまタイムライン」に関する私たちの見解と質問～

NHKを監視・激励する視聴者コミュニティ

<http://kgcomshky.cocolog-nifty.com/blog/>

問題の経過

NHK広島放送局（以下、「NHK広島」と略）が開設した「1945 ひろしまタイムライン」のひとつ、「シュンひろしまタイムライン」に次のような書き込みがされたことに疑問、批判が広がっています。

「朝鮮人の奴らは『この戦争はすぐに終わるヨ』『日本は負けるヨ』と平気で言い放つ。
思わずかっとなり、怒りに任せて言い返そうとしたが、多勢に無勢」

（1945年6月16日）

「朝鮮人だ！！大阪駅で戦勝国となった朝鮮人の群衆が、列車に乗り込んでくる！」

「『俺たちは戦勝国民だ！敗戦国は出て行け！』圧倒的な威力と迫力。怒鳴りながら超満員の列車の窓という窓を叩き割っていく」

（1945年8月20日）

これについて、NHK広島は8月24日、「6月16日・8月20日のツイートについて」と題する見解を発表し、「『差別を助長しているのではないか』というご批判も多数いただきました」と断ったうえで、「戦争の時代に中学1年生が見聞きしたことを、十分な説明なしに発信することで、現代の視聴者のみなさまがどのように受け止めるかについて配慮が不十分だった」、「手記を提供してくれた方が、1945年当時に抱いた思いを、現在も持っているかのような誤解を生み」と謝罪しました。

しかし、私たちはNHK広島のこのような謝罪で問題が一件落ち着いたとは考えません。

私たちの見解

1. 差別を助長したのではないかという批判は、書き込みの内容に照らせば、在日朝鮮人への差別と受けとるのが自然ですが、NHK広島の謝罪文には、差別を受けた当事者である在日朝鮮人への謝罪が一言もありません。

また、それ以前に、「誰に対する」差別に当たるのかについての明確な認識が示されていません。これでは、「お詫び」の実が乏しいと言わざるを得ません。

私たちはNHK広島の責任のもとに制作された、「シュンひろしまタイムライン」が、公共放送にあるまじき在日朝鮮人への差別と憎悪を扇動する書き込みをしたことに厳

重に抗議し、真摯な謝罪をするよう求めます。

2. NHK広島は8月24日に公表した見解の中で、「今後は被爆体験の継承というプロジェクト本来の目的を的確に果たしていくため、必要に応じて注釈をつける、出典を明らかにするなどの対応」をとるとしています。

しかし、そもそも、「1945 ひろしまタイムライン」が、現代の若い世代に「戦争や原爆について、リアリティをもって考えていただく取り組みです」というのなら、広島の地での戦争や被爆体験をリアルに記録した日記、手記、歌集、文献は数多くあります。また、原爆投下当時、広島で被爆した在日朝鮮人の実相、被爆韓国人のその後（被爆者援護をめぐる在日朝鮮人への差別など）を調査した資料（注1）、研究文献もあります。

そうした中で、「シュンひろしまタイムライン」が、当時の軍国主義教育の下で、軍国少年の精神が染みつき（注2）、担任教員の「検閲」も受けた新井俊一郎氏の日記をあえて題材に選んだ理由はどこにあったのか、今後も新井俊一郎氏の日記を題材として使い続けるのか、再考する必要があると私たちは考えます。

質 問

1. 上記「私たちの見解」の1で述べた点について、NHK広島は、「シュンひろしまタイムライン」の6月16日、8月20日の書き込みが在日朝鮮人に対する差別を助長するものだったと認識されているのかどうか、明確にお答え下さい。

2. 上記「私たちの見解」の2で述べた点に関して、NHK広島は、新井俊一郎氏の日記を「シュンタイムライン」の題材として今後も使い続けるのか、より適切と考えられる題材に変更するよう見直す意向があるのかについて、お考えをお聞かせ下さい。

3. NHK広島は8月24日に発表された見解の中で、「今後は被爆体験の継承というプロジェクト本来の目的を的確に果たしていくため、必要に応じて注釈をつける、出典を明らかにするなどの対応」をとるとしています。

しかし、今後と言わず、元の記事にはない文章を6月16日、8月20日の「シュンひろしまタイムライン」に書き込んだ出典、あるいは経緯（誰かの後付けの判断なら、誰の判断か）を明確にされるよう、求めます。

以上3つの質問に対するNHK広島としてのご回答を、文書で、9月15日までに、別紙に記載した宛先へ郵送くださるよう、お願いします。

以 上

（注1）

まとまった代表的な文献として、市場淳子『ヒロシマを持ちかえった人々～「韓国の広

島」はなぜ生まれたのか〜』2000年、凱風社、があります。

(注2)

例えば、新井俊一郎氏の日記には次のような記述があります。

「4月10日(火) 雨、時々曇り

反省録『米英撃滅日誌』と名付けることとする。なんと言ふ良い名であらうか。

さうだ、いま我々日本国民の進んで行くべき道はただ一つ、米英撃滅あるのみである。自分は今まで日記をつけてみたが、これから米英撃滅日誌と名を変へて新発足するのである。今までの日記の書き方は大分字が乱雑であった。しかれども今や自分は天下の附中生となったのである。その意味から言っても、立派に附中生らしく何事も行はなくてはならぬ。もう我々は国民学校の児童ではなくなったのである。立派な日本帝国の学徒となったのである。

本日も修身公民の教官のお話にもあった。我々は入学の喜びを心の底にしまひ込み、なほ一層、勉学に奮闘すべきである。今度、良き帝国の一臣民とし、一人の防人(サキモリ)としての練習を積む教練といふものも出て来た。実に自分達に掛かってゐる所の帝国の信頼と帝国の運命とが、今の戦局、殊に沖縄の激戦を考へて見ると、非常に重大であるといふ事が分かつて来るのである。東京などのやうな大都市は、殆ど連日のごとく敵の爆撃下にさらされてゐる。それに今度のB29の来襲の時、敵は戦闘機を連れて来て居るのである。つまりそれは、硫黄島の飛行場を敵が使用してゐるのだ。無念だ、残念だ。ただ米英撃滅あるのみ。今この日誌の第一頁を、沖縄方面あての特別放送を聞きつつ記す。」

「5月3日(木) 晴

本日発表あり。遂に独総統ヒトラー氏は、名誉の戦死を遂げられたさうである。あの祖国を守る、愛する祖国のために一生を捧げて来たヒトラー総統は、遂に自分の生命を祖国のために捧げたのである。とうとう我が同盟国の二総統は、生命を世界平和のため、祖国のため、日本と同じ道を歩み来て、その生命をも捧げたのである。我々は二総統のため、本当に哀悼の意を表す。」